

付録-7 詳細調査報告書作成要領

詳細調査調書（その1）詳細調査写真

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名		業者名				点検者名		所在地	起 終

詳細調査写真	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
			位置記号				部材名	
			部材記号				部材記号	
			損傷の種類				損傷の種類	
			損傷度評価				損傷度評価	
			メ	モ			メ	モ

コンクリート健全性調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起 終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

中性化深さ調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名		点検者名		所在地	終

調査位置詳細図（※1）				調査結果			
		調査径間	1	調査径間			
		調査部位	主桁	調査部位			
m 測定結果 （※2）	①	80.0	測定結果 （m） （※2）	①			
	②	97.0		②			
	③	95.0		③			
		平均	90.7				
m 測定結果 （※2）	①	30.0	測定結果 （m） （※2）	①			
	平均	30.0		平均			
		環境条件 （通常：1、 塩害：2）	1	環境条件 （通常：1、 塩害：2）			
		発錆限界深さ （※3）	20.0	発錆限界深さ （※3）			
		竣工年	1987年	竣工年			
		供用年数		供用年数			
判定（中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○）				×			
その他				中性化深さが著しく大きいため、コンクリートの品質低下が懸念される。			

・記入例

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。（平均値からの偏差(%)=[(個々の値-平均値)/平均値]×100）

※3 発錆限界深さは、通常環境（かぶり深さ-10mm）、塩害環境（かぶり深さ-25mm）とする。

圧縮強度調査（コア法）

管理番号	工営所	路線名	監督職員	点検日
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称
委託名	業者名	点検者名	所在地	起終

調査結果	試料1	位置記号	供試体寸法		質量 (kg)	1.214	
		1	供試体質量 (g)	1214	見掛けの密度	2410	
			供試体長 (mm)	1	136.8	最大荷重fc' (N)	111000
				2	137		
		部材記号	平均	136.9	高さ補正值	1	
		主桁	供試体直径 (mm)	1	68.4	高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	30.1
				2	68.6	静弾性係数 (kN/mm ²)	24.5
	平均			68.5	設計基準強度 (N/mm ²)	14	
	判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)					○	
	試料2	径間	供試体寸法		質量 (kg)		
			供試体質量 (g)		見掛けの密度		
			供試体長 (mm)	1		最大荷重fc' (N)	
				2		高さ補正值	
		部位	平均		高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)		
			供試体直径 (mm)	1		静弾性係数 (kN/mm ²)	
				2		設計基準強度 (N/mm ²)	
	平均				判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)		
	試料3	径間	供試体寸法		質量 (kg)		
		供試体質量 (g)		見掛けの密度			
		供試体長 (mm)	1		最大荷重fc' (N)		
			2		高さ補正值		
部位		平均		高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)			
		供試体直径 (mm)	1		静弾性係数 (kN/mm ²)		
			2		設計基準強度 (N/mm ²)		
	平均			判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)			

圧縮強度調査（反撥硬度法）

管理番号	工営所	路線名	監督職員	点検日
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称
委託名	業者名	・記入例	点検者名	所在地
				起終

調査No	1			調査No			
	主桁						
	測定回数	測定値	測定回数		測定回数	測定値	測定回数
1	48	16	47	1		16	
2	45	17	44	2		17	
3	51	18	50	3		18	
4	47	19	46	4		19	
5	50	20	49	5		20	
6	45	21	44	6		21	
7	47	22	46	7		22	
8	48	23	47	8		23	
9	44	24	43	9		24	
10	44	25	43	10		25	
11	53	26	52	11		26	
12	46	27	45	12		27	
13	44	28	43	13		28	
14	45	29	44	14		29	
15	45	30	44	15		30	
平均値		23		平均値			
標準偏差σX		4.47		標準偏差σX			
打撃角度α (°)		+90°		打撃角度α (°)			
角度補正值ΔR		-3.1		角度補正值ΔR			
補正反発硬度R		19.9		補正反発硬度R			
補正前圧縮強度F' (N/mm2)		7.3		補正前圧縮強度F' (N/mm2)			
材齢係数K		0.63		材齢係数K			
補正後圧縮強度F (N/mm2)		4.6		補正後圧縮強度F (N/mm2)			
設計基準強度(N/mm2)		18		設計基準強度(N/mm2)			
判定		○		判定			

調査結果

アルカリ骨材反応調査（調査位置概略図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名				点検者名	
								所在地	起 終

位置記号	～	部材記号
------	---	------

調査位置図（※1）

その他	
-----	--

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。（基本となる部材からの距離などを記入）

アルカリ骨材反応調査（調査結果）

管理番号	工営所	路線名	監督職員	点検日											
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称											
委託名		業者名	点検者名	所在地											
				起終											
位置記号		～	部材番号												
調査結果（※1）	試料1	基長 (mm)	・記入例												
		標準養生	解放膨張量 (mm)	・記入例											
			解放膨張率 (%)												
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
			残存膨張量 (mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049
			残存膨張率 (%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%
		養生	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
			残存膨張量 (mm)	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048				
			残存膨張率 (%)	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%				
			全膨張量 (mm)	0.048											
			全膨張率 (%)	0.048%											
			残存膨張性	無											
			基長 (mm)	・記入例											
			標準養生	解放膨張量 (mm)	・記入例										
				解放膨張率 (%)											
	促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	
		残存膨張量 (mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049	
		残存膨張率 (%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%	
	養生	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W					
		残存膨張量 (mm)	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048					
		残存膨張率 (%)	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%					
		全膨張量 (mm)	0.048												
		全膨張率 (%)	0.048%												
		残存膨張性	無												
		基長 (mm)	・記入例												
		標準養生	解放膨張量 (mm)	・記入例											
			解放膨張率 (%)												
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
			残存膨張量 (mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049
			残存膨張率 (%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%
		養生	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
			残存膨張量 (mm)	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048				
			残存膨張率 (%)	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%				
			全膨張量 (mm)	0.048											
			全膨張率 (%)	0.048%											
			残存膨張性	無											
		アルカリ骨材反応 (※2)	×												
		判定	×												
		評価													

※1 促進養生試験（JCI-DD2）またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。

塩害調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員	建設年		交差対象物名称			所在地	起
委託名				業者名				点検者名			終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

塩害調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起終

調査位置詳細図（※1）		調査結果				
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> ・記入例 </div>		位置記号	導流部A			
		部材記号	Wa1			
		含有塩分量測定結果 (kg/m ³) (※2)	表面部 (0-30mm)	0.25		
			中間部 (30-60mm)	0.2		
			深部 (60-90mm)	0.1		
			深部 (90-120mm)	0.1		
		中性化深さ(mm)	2			
		かぶり深さ測定結果(mm)	80			
		鉄筋位置の塩化物イオン濃度	0.1			
		竣工年	1989			
供用年数	22					
判定 (1.2kg/m ³ 以上：要対策, 1.2kg/m ³ 未満：対策不要)		対策不要				
評価	塩化物イオン濃度は極めて低く、塩害による損傷が生じる可能性は低い。					

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。